

〔平成 26 年度 決算 概要〕

【資金収支計算書】

納付金収入は、少子化傾向が続く中、学生・生徒募集により学生・生徒数が前年度と比べ増加し、予算比では 79 百万円減少しましたが前年度比では 212 百万円増加の 3,901 百万円となりました。

手数料収入は、予算比 1 百万円増加、前年度比 8 百万円増加の 93 百万円となりました。

寄付金収入は、予算比 6 百万円増加、前年度比 2 百万円増加の 6 百万円となりました。

補助金収入は、国庫補助金、大阪府補助金の増加により予算比 60 百万円増加、前年度比 132 百万円増加の 1,072 百万円となりました。

資産運用収入は、運用先の見直しなどにより受取利息が増え、予算比 6 百万円増加、前年度比 2 百万円増加の 52 百万円となりました。

事業収入は、予算費 9 百万円増加、前年度比横ばいの 69 百万円となりました。

雑収入は、予算比では 1 百万円減少しましたが、退職金財団からの交付金収入が前年より増加したため、前年度比 23 百万円増加の 69 百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒の入学人数が予算見込み数より減少し、予算比では 61 百万円減少しましたが、前年より入学人数が増加したことにより、前年度比 33 百万円増加の 811 百万円となりました。

前年度繰越支払資金を除く資金収入は、予算比 142 百万円減少、前年度比 371 百万円増加の 5,329 百万円となりました。

人件費は、予算比では 67 百万円減少しましたが、学生・生徒数の増加に伴う教員増による人件費増の影響により、前年度比では 78 百万円増加の 3,004 百万円となりました。

経費は、各部門における経費の節減効果が大きく教育研究経費支出、管理経費支出合計で、予算比 43 百万円減少しましたが、前年度比では 60 百万円増加の 1,573 百万円の支出となりました。

施設、設備関係支出については、予算比では 86 百万円減少しましたが、短大新校舎建設、短大・高校の耐震改修工事関連の支出により、前年度比 406 百万円増加の 748 百万円となりました。

上記の結果、法人全体として次年度繰越支払資金は期首より 662 百万円減少の 3,559 百万円となりましたが、減価償却引当特定資産への繰入 355 百万円等、資産運用支出計上分の 686 百万円を内部留保後の支払資金です。

【消費収支計算書】

消費収入は、学生生徒納付金・手数料・寄付金・補助金・資産運用収入・事業収入・雑収入については資金収支計算書・収入の部と同じ要因で、帰属収入の合計は予算比 10 百万円増加、前年度比 340 百万円増加の 5,269 百万円となりました。

基本金組入額合計は予算比 287 百万円減少、前年度比 307 百万円増加の 901 百万円で、主だったものとして短大新校舎建設に係る第 1 号基本金への組入 450 百万円、第 2 号基本金への組入 355 百万円あり、消費収入の部合計は予算比 297 百万円増加、前年度比 34 百万円増加の 4,368 百万円となりました。

資金収支計算書・支出の部と同じ要因で、人件費は予算比 46 百万円減少、前年度比 74 百万円増加の 3,056 百万円となりました。経費は、経費節減効果により予算比 63 百万円減少しましたが、前年度比 54 百万円増加の 2,057 百万円となりました。消費支出の部合計は、予算比 117 百万円減少、前年度比 109 百万円増加の 5,125 百万円となりました。

当年度消費収支差額は、収入増と経費節減効果により支出超過額が予算比 414 百万円減少の 757 百万円の支出超過となり、基本金取崩額が 2 百万円あり、翌年度繰越消費支出超過額は 1,553 百万円となりました。なお、帰属収支差額は 145 百万円の収入超過となりました。

【貸借対照表】

固定資産は、有形固定資産において短大新校舎建設にかかる支出 450 百万円があり、減価償却による簿価の減少がありましたが、前年度末比 260 百万円増加の 12,508 百万円となりました。

また、その他の固定資産は、退職引当特定資産が 34 百万円増加、減価償却引当特定資産が 237 百万円増加し、今年度においても短大校舎建設引当特定資産 355 百万円を積み増したことで、診療所への収益事業元入金 60 百万円を計上したことにより、前年度末比 685 百万円増加の 7,139 百万円となり、固定資産合計では前年度末比 946 百万円増加の 19,647 百万円となりました。

流動資産は、現金預金の減少等により、前年度末比 699 百万円減少の 3,745 百万円となりました。

よって資産の部合計は前年度末比 247 百万円増加の 23,392 百万円となりました。

負債の部は、退職給与引当金の増加、退職金を含む未払金の増加により、負債の部合計は前年度末比 102 百万円増加の総額 1,987 百万円となりました。

基本金は、短大校舎建設に係る第 1 号基本金 450 百万円の組入及び第 2 号基本金 355 百万円の組入に対し、備品の当年度簿外処理分の減額等がありましたが、基本金の部合計では前年度末比 900 百万円の増加の 22,957 百万円となりました。

消費収支計算書の部で述べたように、翌年度繰越消費支出超過額は、前年度末 798 百万円から 755 百万円増加し、1,553 百万円の翌年度繰越消費支出超過額となりました。また純資産（資産の部合計－負債の部合計）は前年度末比 145 百万円増加の 21,404 百万円となりました。